

「安全で、安定した電力を、廉価で供給する」ために

株式会社 IHI
執行役員・原子力セクター長

國廣 孝徳
Kunihiro Takanori



IIC の皆さん、常日頃、我々原子力セクターの事業に対し、誠実かつ真摯にご協力いただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。

原子力事業においては、技術、製品、サービスの安全・品質を、より良いもの、より信頼されるものにし続けることが求められています。この点での進歩・革新のため、グループ会社の IIC には大いに期待しています。

IIC の中核事業である検査・計測において、「検査・計測の進歩なくして、技術・製品・サービス・産業の進歩なし。」と言っても過言ではありません。それは、ノーベル賞において、検査・計測技術の果たした役割の大きさが示しており、ちょうど 12 年前に、株式会社島津製作所の田中耕一氏が「生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発」でノーベル賞を受賞されたのは象徴的でした。また、製品・サービスの安全性・品質を保証する重要な手段の一つが検査・計測であることは論を待ちません。

我々原子力部門と IIC の関係を辿ってみますと、工場および原子力発電所での検査・品質管理業務、各発電所向け In-Service Inspection（供用期

間中検査）装置の製造・メンテナンス、その他さまざまな試験・検査・分析・解析業務で協力していただいています。また、最近では加圧水型原子炉の Steam Generator（蒸気発生器）の検査装置の開発、六ヶ所再処理施設の高レベル廃液ガラス固化・貯蔵施設向けの改良型溶接機・レーザー切断装置、税関向け大型 X 線検査装置の製造・メンテナンスと限りがありません。また、海外においても、米国に、検査・計測事業を営む IHI Southwest Technology (ISwT) 社を共同経営しています。

まさに、高品質の製品・サービスを提供することで成長してきた IHI 原子力セクターの事業の歴史は、IIC との二人三脚で歩んできたというのが実感です。

しかしながら、3 年前の“3.11”を境に、原子力事業を取り巻く環境は、『原子カルネッサンス』から『停滞』へと一変しました。

こういった時期であるからこそ、原点に戻り、電力供給に課せられた「安全で、安定した電力を、廉価で供給する」という使命に貢献するには、我々原子力事業にかかわる者として、何をしなければ

ならないか、真摯に考え、行動せねばなりません。

その観点から、IICに関わりのあることを3つ述べさせていただきます。

まず、原子力機器・プラント・サービスの「安全」（というよりも、「信頼される」と言ったほうがよいかもかもしれませんが）にかかわることです。言うまでもないことですが、検査・計測技術そのものに、さらに磨きをかけることは必要ですが、検査・計測結果の解析・評価技術が、より重要になっています。この分野においても、IICがメキメキと力をつけられているのは心強い限りです。また、検査・計測記録の信憑性・トレーサビリティは原子力にとって生命線であり、この面での高度化が必須です。製品・サービスへの信頼を高めるためにも、ますますの努力・研鑽をお願いします。

2つ目は、「廉価」ということにかかわることです。ものづくりにおいて、特に原子力においては、検査・計測は、品質保証上必須事項ではありますが、ものづくりにおける付加価値の流れ（＝ものが形を変えてゆく流れ）を堰き止める（＝リードタイムを長くし、コストアップを招く）要因の一つが検査・計測工程でもあります。我々が扱うような大型の一品生産品であっても、検査・計測を正確・確実に実行しつつ、付加価値の流れにお

ける淀みを限りなくゼロにすることが必要です。我々のものづくりの方式も、その実現に向け変えてゆきますので、検査・計測の手法・設備の開発等に協力をお願いします。

最後は、我々の生産設備・製品の安全・信頼・価格・稼働率すべてにかかわることです。加工中、あるいは生産設備・製品に異常が起きる前に手を打てるなら、トラブルを未然に防ぎ、さまざまなロスを減らせます。昨年10月に、IICは株式会社IHI エスキューブの制御技術部門を統合し、新たに制御・監視ソリューション事業を加えられました。まさに世が必要とする技術です。大いに協業を模索したいと思います。

現在、原子力事業は厳しい環境下にあります。これを神様が与えてくださった次の飛躍に向けた試練と受け止め、誠実に、真摯に、地道に、継続して、技術を磨き、製品・サービスの安全性を高め、信頼を得るとともに、競争力の強化を図ってゆきます。そのためには、IICのカバーする事業領域すべてが我々にとって重要です。

今後とも引き続き、差別性のある、あるいはイノベティブな製品・サービスの開発と、誠実・真摯、確実かつスピーディーな業務遂行と、（期待が大きいだけに）欲張りなお願いをし、筆をおきます。